

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300033		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホームふるさとの家「城下」	ユニット名	
所在地	島原市新湊二丁目丙1740-2		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	平成年月日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年12月2日	評価確定日	平成26年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の皆さんやご家族の皆さんに安心して楽しく生活していただくよう、個々の状態に合わせてお手伝いさせていただいています。今までの生活歴を職員が十分に把握し、その人に合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただいております。地域との交流も活発に行い、夏祭りや子供の交流、または老人会とのグランドゴルフなど利用者の皆さんが楽しめる活動も行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島原にある「ふるさとの家「城下」」では笑い声が毎日聞かれ、ご利用者も職員も素敵な笑顔で暮らされている。職員の離職も少なく、馴染みの関係の中で「普通に」暮らすための取り組みが続けられ、リビングの神棚のお水を変えて下さる方、食材の下ごしらえ(ゴボウそぎやゴマすり)をして下さる方など、ご本人のペースや能力を大切にされた生活支援が行われている。管理者や職員は代表の思いを大切にすると共に、平成25年度は「その人らしさ」とは?「心のゆとり」とは?を職員全員参加で検証し、「心のゆとり5か条」を作成。当施設の基本理念から、「その人らしい普通の暮らし」を支えるケアが拘束、虐待になっていないかを検証し、生活歴を意識したケアに取り組んだ。そのプロセスを通して、「心のゆとり」を持つための5か条「深呼吸、表情のチェック、冷静に、気合を入れる、とにかく笑顔」が作られ、27年度に向けて5か条の取り組み内容のまとめ(研究)も行う予定である。26年8月からはホーム長(看護師)も就任し、今後も更に医療面の勉強を増やしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を意識できるように、荘内に掲示している。さらに毎日の申し送り時に必ず声に出して確認するようにしている。理念を共通理解したうえで利用者に対する介護実践するように努力している。	「老いても障害を持っても 当たり前に分らしく普通に暮らしたい」という理念のもと、筍掘りや干し柿作り、食事の下ごしらえ、草取り、買い物、家族との会話などを楽しまれ、普通の暮らしが行われている。車いすを利用する方も、地域でグランドゴルフを楽しまれたり、音楽を楽しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶はもちろん、居住区域間の配布物、回覧板等を通じての交流、地域行事の参加及び当施設の行事への参加の呼びかけ交流により地域のいろいろな世代との交流が図れる。	保育園児が踊りを披露したり、ご利用者の肩もみをして下さっている。ホーム主催の音楽祭や夏祭り(1年毎)には地域の方が沢山来て下さり、楽しいひと時を過ごされた。地域のグランドゴルフにも参加し、地域の方が職員などに教えて下さる機会も作られ、車いすの方も参加する事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等に参加することにより、認知症の方が毎日楽しく当たり前で生き生きと暮らしていけることを体感してもらい、また介護に対するご相談もお受けしたことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	円滑な会議の運営を通して、職種やスタンスの異なる各委員との意見交換、指摘や提案等が積極的に行われている。	会議では話が盛り上がり、色々な情報交換が行われている。参加者からの意見やアドバイスも参考になり、婦人会やグランドゴルフに参加する事もできた。新会長が積極的に関わって下さり、他の参加者とも協力して地域連携を強化する方向性で議論をする事ができている。	高齢化と共に、一人暮らしも多い地域である。今後も会議で災害対策の検討を続け、ホームが避難場所となるためのマニュアル作りも行う予定である。グランドゴルフの参加を通して、ホームでの集い(お茶飲み会等)も企画できればと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主体の研修会に進んで参加している	行政主催の講習会の講師(認知症ケア等)を代表が務めている。代表は「みんなで良くなっていこう」という思いがあり、島原市のGH連絡協議会を通して市の方に要望等を伝えている。今後も市の方と会議を行う予定であり、各ホーム共通の課題等も教えて頂きたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は理由にとわらず行わないという方針が周知されている。身体拘束廃止委員会を中心に日々のケアの振り返りや評価修正を行い、身体拘束を行わないケアに一致協力して行っている。	毎月の目標を決めて、「身体拘束のないケア」に取り組まれている。取り組みの評価も行い、評価結果はホーム内に掲示し、職員の振り返りに活用している。感情不安定が見られる時は職員が寄り添い、外出傾向の強い方には散歩などにもお連れしている。ご本人に応じた声かけに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な行動のみならず、言葉の内容によっては虐待につながることも理解し日常のケアを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加をすることにより、必要性を関係者と話し合い活用できるように支援してきたが現在必要な方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料などを掲示して入居の申し込み時点は無論のこと利用者や家族の理解の状況に合わせて行う。疑問点においては、満足が得られるまで面談により説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表の参加もあり、意見や要望が反映できる場として認識されている。また面会時にも家族の要望を聞き取り、運営推進会議でお知らせする機会も設けている。	代表からも、「家族からの意見を大切に」と職員に伝えており、職員は面会時などに家族とお話する機会を大切にしている。家族から「職員の名前がわからない」と言う意見を頂き、通信に職員の写真と名前を載せる取り組みが行われた。家族は行事の時も協力して下さり、職員も感謝している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議の議事録は回覧できる体制となっており、内容は各種会議で報告している。それらを今後の運営に反映させている。	職員の意見に対して、代表は「それはいい！」「貴方は素晴らしい！」と職員を褒めながら必要なアドバイスをしている。新人職員の面接も定期的に行い、理念(代表の思い)に添ったケアができるようになっている。職員個々の特技(絵・新聞作り・園芸・スポーツなど)も発揮して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は常に管理者と職員との対話にも注意をはからい勤務状況にも実績表等により把握し給与水準・労働時間・やりがいなども整備し努力している。それにより各自が向上心を持ち日常の努力が何らかの形で報われるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会参加、費用の助成及び負担を行っている。代表自身も会議での意見交換を機会とし自身での教育等も行われている。勤務と勉強が両立できるよう職場での勤務状況へも配慮することが浸透している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・スポーツ大会等相互の行事への参加などを通じて広く交流する機会と活動により、お互いを知り学びあうことによって、人間としての成長が図られ、ひいては質の高いケアの提供やサービスの向上につながっている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通の可能な方に関しては家族から提供された情報提供表を参考にしつつ、可能な限りコミュニケーションをとり、意思疎通困難な方にはなるべく早期に良好な関係を築き素直に意思表示できるよう働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、入所を機に要望したいことなどを積極的に聴取し、徐々にいろいろなことを素直に言えるような関係となるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とコミュニケーションをとり基本情報収集アセスメントを実施し今最も必要とされているサービスを色々な方法から考え支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	思い等を尊重してできることやできないことを明確に把握し、一方的に援助するのではなく暮らしの中で見守りさせて頂いたり支援させて頂いていただいたりという関係を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お知らせする手紙や健康面の維持管理については電話連絡により情報交換を行っている。その中で家族の存在の重要性とともに共に支えあうという思いを伝えながら関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は心置きなくお話できるように自室であっていただいている。また、帰宅の際には希望があれば同行しお仏壇やお墓へのお参りなどの支援もしている。	馴染みの場所は”山”と言われる方も多く、筍掘りや山菜採りに行かれている。柿を収穫して干し柿作りも行われ、雲仙の紅葉見物や八幡神社など、色々な馴染みの場所にお連れしている。お孫さんの美容室で散髪したり、「じいちゃんの孫で良かった」と書かれたコップを愛用している方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はその関係が続くようにスタッフがさりげなく誘導し和やかに過ごせるよう配慮している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の行事への案内をしたり、外出などの機会にはあつて状況を聞いたり、気軽に来ていただけるようお誘いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れコミュニケーションによる把握に努めている。家族へも情報収集を行い参考にさせていただいている。	25年度は「生活歴の把握を更に行う」事を掲げ、職員個々に取り組みを深めてきた。生活歴と今の生活の違いを分析し、行動の背景の把握に努めてこられた。意思疎通が難しい方は家族に尋ね、ご利用者の表情や行動から気持ちを汲み取り、その方の立場に立って考えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人とのコミュニケーションにより把握している傍らご家族からも情報を得て、ホームの中でも今までの暮らし方や行動をできる限り続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の把握に関しては、定期のバイタル表を参考にして以上の早期発見に努めている。また食事摂取状態や表情、会話時の反応や行動などにより総合的に把握するように心がけつつ記録や申し送り等でも状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制で日々の記録の情報を基に家族の意向も取り入れながら作成をする。毎月のモニタリング及び評価を行い、職員会議でも情報交換を行いながら現状に即した介護計画を作成している。	洗濯物たたみや茶碗拭き、外出等も盛り込まれ、3表(日課表)も作成している。26年度の取り組みで、“ヒヤリハット”の視点も強化され、転倒予防のための機能訓練や歩行訓練等も盛り込まれている。日々の記録に計画を手書きし、担当職員を中心に全職員でケアの振り返りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の体調の変化、食事摂取状況、精神状態等を具体的かつ個人的に施設計画実行表に記録する。それらを職員全体が共有し介護計画に沿ったケアの実践に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や家庭での行事への参加支援は利用者の体調に合わせて柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方々に会うのは勿論のこと、行きつけのお店などへ出かけたりボランティアとの交流も積極的に受け入れ活気に満ちた心豊かな生活を送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医にお願いしている。かかりつけがない場合は、当施設の協力機関にお願いしている。	内科(2人の医師)と歯科の往診がある。眼科等は職員が受診支援を行い、家族が同席される場合もある。状態変化時は電話で報告し、定期的受診結果は毎月の手紙で報告している。24時間体制で主治医とホームの看護師に相談できる体制もあり、夜中も往診をして下さっている。	26年8月から看護師(ホーム長)が勤務している。代表を含めて看護師が2名になり、職員も相談できる機会が増えている。誤嚥時の対応を含めて実技の向上を希望する職員も多く、今後も勉強会を増やしていく予定である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より注意深く利用者の観察を行うことにより些細な変化も見逃さず看護職に報告し必要時は医療機関の受診へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医、担当看護師との情報交換により利用者の持つ疾病のコントロールや治療継続の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向を十分に把握して当施設においての可能な支援の範囲を掲示する。その時期の到来時には再度話し合いを行いチームで対応する。	「最期までここで」言う希望も多く、主治医の同意も得られれば終末期ケアを行っている。「城下で暮らす事が親孝行」と言われる家族もおられ、代表や職員は嬉しく思っている。病状の変化に応じて、ご本人や家族、主治医との話し合いも続けている。協力医療機関の先生も24時間体制で協力して下さい、いつもお褒めの言葉を下さっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測可能な状態に対し、マニュアル作成し周知を図っている。また研修会による勉強も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災委員会で企画し定期的に訓練を行っている。	毎月、系列事業所の代表(男性職員)が災害対策を検討しており、地域の避難訓練にも参加している。2月に1回、昼夜想定で自主訓練を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方・利用者と、4棟合同の避難訓練をしている。津波や普賢岳噴火及び地震・山崩れ等を想定した訓練も行われ、災害に備え、非常食等が入った災害バックや独自の持ち出し品なども準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者各自の人格や性格を理解し、対応時やケア提供時は言葉遣いや態度など利用者個々を尊敬の念と愛情を持って接するよう努めている。	島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さにも注意している。ご利用者と話す時は親身に聴き、1人1人に応じた声かけをしている。職員個々の感情が利用者の行動に影響するので、常に冷静に落ち着いて、毎日穏やかな気持ちで過ごせるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	機会ごとに利用者の希望や要望などを聞いておき自己決定をできるだけスムーズにできるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護側だけでスケジュール化せず、その方のペースでゆったりと過ごしたり行動できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は自分で選ばれている。できられない方にはその方に似合う服装や髪形になるように支援している。行事に参加した場合はお化粧品やマニキュアなどの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられる献立を考え、可能な限り健康と嗜好との両立を図っている。利用者の好みも取り入れながらおいしく楽しい食事を心がけている。	26年11月から、系列のホームも含めて食事(3食)を作るシェフを雇用し、旬の物や野菜を多く使い、美味しい料理が作られている。家族から野菜や生姜などの差し入れもあり、生姜湯なども作られている。ご利用者もゴマすりやゴボうそぎ、下膳などをして下さり、職員も一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものを使うように心がけ、栄養の偏らない内容と各自の食事摂取に関する自立度にあつた形態を工夫するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きを行い、自分でできられない方は職員により口腔ケアが支援されている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者ごとに排泄チェック表を利用し、パターンを把握して誘導を行っている。	排泄が自立し、布の下着の方もおられる。できる限りトイレを使用し、パッド使用の有無も職員間で検討している。失禁時も小声でトイレ誘導し、パッド交換等をしている。おむつ使用の方もおられ、褥瘡予防のためのおむつ交換の方法を看護師がアドバイスし、日々のケアで職員も実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜や食物繊維を多く取り入れまた運動により腸の善導を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとり入って行っている。体調やタイミングに合わせて行っている。	入浴好きな方ばかりで、湯船に浸かれる方も多し。湯温などの希望も大切にしており、洋服を脱ぐ時もタオルをかける等の配慮をしている。入浴時は昔の話をして下さり、歌も聞かれ、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。できる所は自分で洗って頂き、体調に応じて2人介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に沿って自室や居間で過ごしていただいている。夜間の睡眠を安定して得られるように昼間を活動的に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の疾患に合わせて処方されている薬剤の内容及び副作用等の理解をしたうえで、各自の身体能力や理解度に合わせて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、散歩が好きな方、犬好きな方いろいろな方がおられるので、十分な情報収集とご本人の意向を重視してレクを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の体調を考慮したうえでのドライブや買い物などに出かけている。季節の花(桜・コスモス・紅葉)等の見物に棟することもあ	毎日外出されており、外出時間に応じて、昼食時間も柔軟に変更している。お弁当持参で季節に応じた花見(つつじ、秋桜、紅葉、桜など)に出かける時もあり、海や山のドライブを日々楽しまれている。舞岳等にお水を汲みに行かれたり、買い物に行き、お菓子を購入されている。25年から宅老所(2件隣)に足湯ができ、毎週楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理できられる方はいらっしやらない。ご希望時は、ご家族と相談のうえお買い物などに同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は高齢による難聴を考え、ご家族は直接の面会をされるのがほとんどだが、電話の場合は声が聞こえるよう自室でされるよう配慮する。贈り物にはお礼状など写真を同封して送るなどの援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	影や飾り棚には季節の花や折り紙、人形などの小物を飾り季節感が伝わるようにしている。特にお正月や節分、ひな祭りや節句等の時期には皆さんがわかる場所に飾りつけを行う。	昔の風情を残し、トイレの戸や食器棚も木目調になっている。天窗のある明るいリビングは、移転前のホームの表札が掛けられ、対面キッチンからはリビング全体を見渡す事ができる。ソファでお昼寝する方や和室で洗濯物を置まれる方、リビングの神棚の水替えが日課になっている方もおられ、ご利用者と職員、家族等も仲良くソファに座られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が隣り合って座れるように誘導したり個々の好まれる場所を察知し過ごすことができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室の入り口には、同意を得て個人の写真を掲示し、認識しやすいように配慮している。室内にはお位牌を置かれている方もありまた使い慣れた家具や小物など自由に配置され可能な限り自分のかつてのお部屋に近い環境づくりに配慮している。	和と洋でドアを変え、お部屋の間違いがないように工夫している。和室には畳を敷き、窓には障子があり、落ち着いた空間になっている。居室には時計を置かれている方や、家族の写真を飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り障害物を除き、室内は広く安全に使えるように配置している。トイレには目印を掲示し迷うことが内容に配慮している。		